

## 社協あたご（第58号）表紙と由来

6月5日（火）（主管 広報部）

愛宕地区社会福祉協議会の広報誌である“社協あたご”に連載中の「あたごの歴史シリーズ」について検討した結果、次回第58号（10月15日発行予定）は「いせき」をテーマとすることを広報部会で決定した。広報誌に掲載予定の写真と本文は以下のものを予定しています。



### 井堰

1600年、関ヶ原の戦いに敗れ、出雲富田城より岩国へ移封された吉川広家は、岩国に城下町を作りました。その時、門前川が本流だった錦川を牛野谷と川下デルタの頂部の間で堰き止め、今津川の方へ流すようにしました。これが「井堰」です。水深の深くなった今津川には港を作り、藩の御船手組(おふなてぐみ)を置き、大坂、江戸などと交易するようになりました。現在、今津八百新酒場前の川岸には当時の「雁木(がんぎ)」が残っています。現在、「井堰」は夏になりますと幼いこどもたちの遊泳場となり、こどもやお母さんたちでにぎわっています。対岸(川下)の大楠群は、二代藩主、広正の隠居所が出来た時植えられたものと見られ、300年の樹齢を誇っています。